

糸島のト占神事 1

～白糸寒褌ぎにみる米占い～

古川秀幸 (伊都国歴史博物館)

I はじめに

農耕民族である我が国では、古来より農業、特に稲作における稲の生育と秋の豊作を祈願する四季折々の民俗行事（マツリ）が行われている。その多くは自然神への畏敬の念をもって「願」をかけ、成就すると感謝祭を行う所謂、「神だのみ」と言える行為となる。

こうした農耕儀礼としてのマツリは、年初めの祈年祭と秋の新嘗祭とが対を成すものであり、現在、行われているその多くは、天台密教と結びついた村の鎮守神（神社）の祭礼と融合する形で今日の姿となったものと解釈されている。また、これらを大別すると年初めの祓・擁災・ト占、春の予祝、夏の天災、疫病に対する祈願祭、秋の収穫感謝祭などに分かれ、暦の陽暦への変更の後に多少の時期差はあるものの、ほぼ共通している事象と言える。

さて、こうしたマツリを糸島地区内で見てみると年初めの桜井神社の餅押し（志摩）、淀川神社

の百々手祭り（二丈）などから始まり、予祝としての高祖神楽（前原）、福井神楽（二丈）、夏の加布里山笠（前原・現在休止中）、秋の収穫感謝としての神幸祭（二丈）などを見出すことができる。

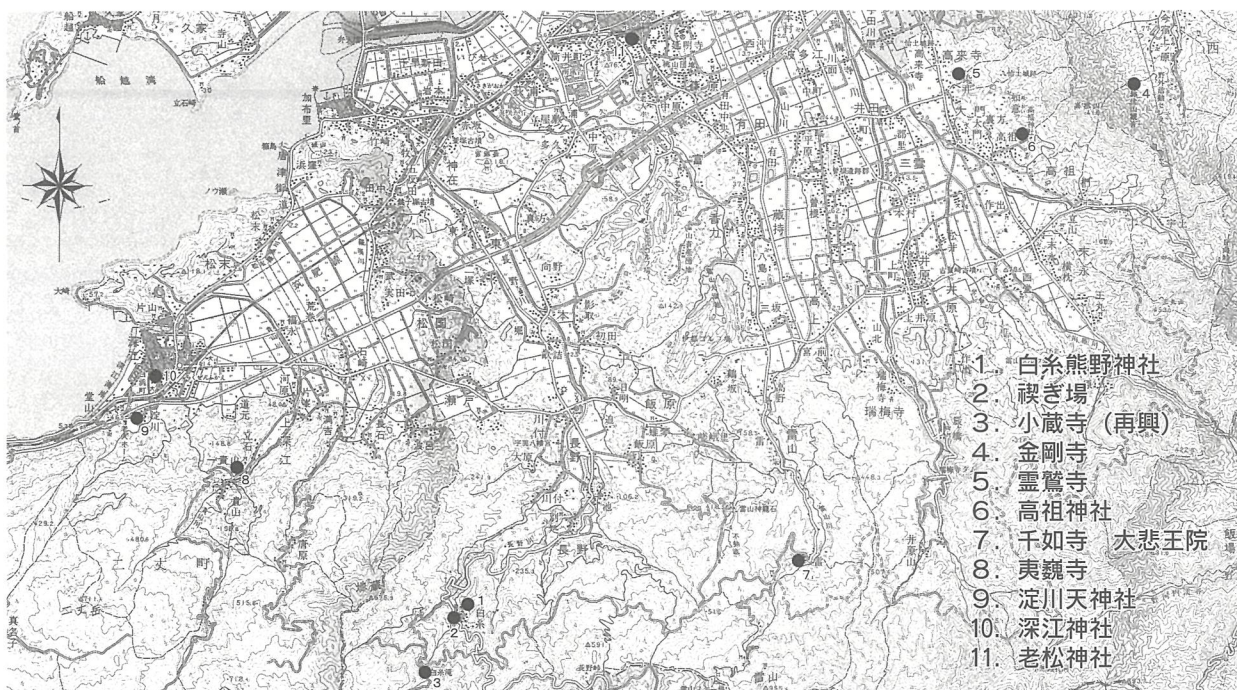
本稿では、これらのマツリのうち、毎年、12月17日夜半（18日午前0時）に行われている潔斎神事、「白糸の寒褌ぎ」に見られるト占神事を紹介したい。

II 位置と環境

1) 白糸集落

寒褌ぎは行われる白糸地区は、脊振山系の中腹、福岡県糸島市大字小倉に位置する。筑前国より肥前国へと抜ける長野峠の下、標高300mの高所に立地する集落で、近世期、享保2年（1717）よりは中津領となった地域である。現在は長糸行政区の中に含まれているが、規模としては30戸程で構成される集落となる。

集落内には熊野神社をはじめ、小倉寺址と伝



第1図 位置図

えられる観音堂があり、集落の西南800m程の高所には長野川より落ちる「白糸の滝」と呼ばれる落差8m程の瀑布(図版1)が形成される風光明媚な地域である。

2) 熊野神社(図版2)

白糸集落の鎮守社であり、祭神は伊弉册尊、事解男尊、大山祇尊、祭日は九月十五日である。

同地は元禄16(1703)年編集の『筑前国続風土記』(貝原益軒編)の中に「小倉寺の外に、熊野三所権現の社あり、龍樹権現も相殿に祀る。女人の参詣を許さず」と記されており、奈良時代創建の伝説が残る怡土七ヶ寺のひとつ、小蔵寺の鎮守社と推定とされる。また、同社にも天文11年(1542)に領主、原田隆種によって小蔵寺鎮守権現の社を再建と記したとの棟札が残っており、鎮守としての関係には信憑性が高い。

3) 観音堂(図版2)

熊野神社に隣接して建立されている、4間×5間の小堂である。小倉山 小蔵寺の跡と伝えられ、堂内には清賀上人の作と云われる2体の木造観音菩薩立像が安置される。

近年、白糸の滝の脇に一院が建立され、「小蔵寺」として再興(図版1)されているが、旧小蔵寺とのつながりはない。

木造十一面観音立像(図版3)

クス材の一木造りであり、内削りを施さない。左手には水瓶を持ち、右手は与願印をとる。室町時代。像高149.7cm。

木造観音菩薩立像(図版3)

クス材の一木造りであり、内削りを施さない。胸前で合掌する特異な形態をとる。室町時代。像高153.3cm。

III マツリの概要

ここでは、マツリの概要を組織、規則、前準備、流れに分けて概説したい。

1) 組織

氏子会長(行政区長)を筆頭に区役員4名が宮神事を取り仕切り、組当番の役員が寒襖を取り仕切る。この組当番については、白糸集落

を西組(18戸)と東組(12戸)とに分け、輪番制で受け持つ。また、男衆の先導役(松明持ち、御神灯持ち、御国米研ぎ)を務める4名は、両親が健在している年男から選ばれる。

2) 規則(禁忌事項など)

男祭りであり、女人禁制が大前提となる。また、刺青を入れた者は襖ぎには参加できない決まりとなる。喪中など家内に不幸があった家については、参加できないという明確な規則はないが、各自、自粛して参加されていない。この他、マツリの切り銭として一軒につき、米五合を持参することとなっているとされる。

3) 前準備

襖ぎ場づくり

襖ぎの一週間程前に当たる日曜日に当番組の役員たちによって、川付川に堰が設けられ、川水が貯められて襖ぎ場が作られる。

蒟蒻飯づくり

蒟蒻飯とは直会での握り飯であり、17日の夜(18:00集合、22:00頃より炊き出し)、当番組の男たちによって作られる。その昔、鶏肉が高価であったため、蒟蒻のみの具材を醤油だけで炊いたことが始まりと言われる。また、調理法としては庖丁を使用せずに素手で割くことが慣わしとなっている。(写真1)

締込渡し

22:00頃、氏子会の役員より、男衆の先導役(松明持ち)へ締込が渡される。

これにより襖ぎでの大役が任される。



写真1 蒟蒻飯

4) マツリの流れ

<17日>夜11:30。一番太鼓の合図により白糸集落の男衆が締込み姿で熊野神社境内に参集する。(写真2)

11:45。二番太鼓が鳴り、寒禊ぎの始まりが伝えられる。

0:00。神殿において神官の祝詞が役員たちの前で奏上され、その後、拝殿前に参集した男衆が神官よりお祓いを受ける。(写真3)

<18日>0:10頃。三番太鼓の合図とともに男衆が川付川(長野川支流)へと向かう。男衆は、提灯と松明を持った先導役に続き、洗米を行う厄年の男(3人)、その後に地元男衆が一段となり、「エイサッ」の掛け声とともに禊ぎ場へと走り進む。(写真4)



写真2



写真3 祝詞



写真4 出発

禊ぎ場で到着すると、冷気の中、我先にと川に飛び込み、水をかけ合う。この禊ぎはいくつかの円陣が組まれ、最終的には大きなひとつの円陣となっていく。(写真5)



写真5

5) 洗米

禊ぎ神事の最中、上流では3人の年男により、御国米(おごくまい)の洗米(写真6)が行われている。洗米は3升3合を磨ぎ、7回磨いで、七回流す決まりである。磨ぎ終わると同時に禊ぎ神事も終了(0:20頃)、一同、熊野神社へと引き返すこととなる。



写真6

6) 米占い

年男により洗米された御国米は、拝殿前の露天釜で炊かれる。また、燃料として薪は使用せず、竹を使うという決まりがある。その後、炊きあがった白米を3膳の折ぎ盆に取り分け、それぞれ円錐状に盛りつけて神殿に、また、別に観音堂にも1膳が供えられ、占いを待つ。(写真7・8)

ト占神事は、18日未明に神官により行われる。ト占の方法は円錐状に盛られたご飯の頂点の傾き具合を神官が見定めて宣旨が行われるが、倒れた方向により豊作、不作と決められている。また、その方角については秘伝とされている。

以上、当日の流れを前準備から米占いまでを時系列に沿って記してみたが、ト占に使う御国米を観音堂にも供える点には疑問が残る。



写真7

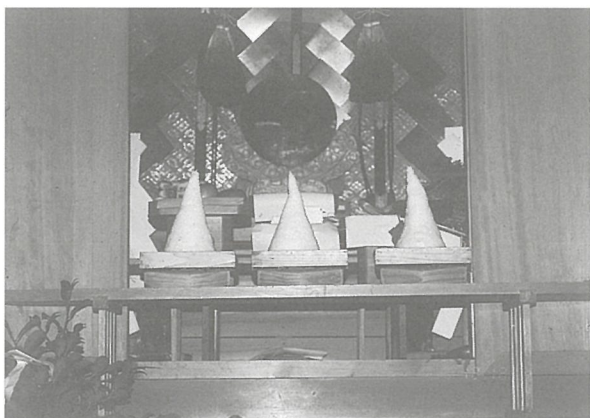


写真8

IV おわりに

禊ぎという潔斎行為が主体となる「白糸の寒禊ぎ」であるが、その構成は厄払いや無病息災（集落安寧）の祈願と翌年の五穀のト占とに分かれる。この構成は、ト占に違いはあるが、年初めの集落安寧や五穀豊稔祈願に果たす淀川天神社（二丈淀川）の百々手祭りや桜井神社（志摩桜井）の「餅押し」と意味合的には類似するマツリと言える。

次にト占の形態であるが、短時間でその吉凶が宣せられる点に大きな違いを見せるが、日向峠を挟んで東側に当たる福岡市西区の飯盛神社に見られる「粥占い」と同系列のものと言える。しかし

ながら、その解釈については神事自体の性格に関わるものと考えられ、禊ぎ神事自体の時間帯に着目をして考えてみたい。

4) 項でも記述したとおり、前準備から役員への祝詞奏上など一連の流れを見ると、「寒禊ぎ」自体は熊野神社の神事として捉えられがちである。しかしながら、「禊ぎ」に至る流れの中では17日深夜の一番太鼓の合図から0:00を過ぎた三番太鼓によって執り行われており、こうした日付を跨ぐ時間軸の経過は、単に厳寒の中で神事が行われるためとただけでは解釈しがたいものがある。この解釈としては、17日という日で考えてみたいが、この期日は、地域社会における集落講である「観音講」が行われる日であり、白糸地区においても「お観音さま」と称して毎月17日に近い日を選んで御堂の掃除と花替え等を行う風習が残っていた。こうした点から考えると「寒禊ぎ」の要因のひとつが「観音信仰」に起因しているものと想定でき、これを裏付けるように白糸集落では「寒禊ぎ」自体の行為を「冬の観音様」と呼んでいることも確認された。また、こう考えると神事である米占いの御国米が観音を祀る御堂にまで供えることにも納得できる。「寒禊ぎ」に付随するト占神事である米占いは、鎮守神である熊野神社への「神だのみ」であり、観音信仰との融合が今日の「寒禊ぎ」として形成されたものと考えられよう。

中世以降、顕密社寺の多くが山岳信仰と結びついている事は想定されるが、糸島地区の脊振山系沿いに残る民俗行事には顕著に表れており、それらの多くが所謂、「怡土七ヶ寺」とされている寺院が大いに関与していた可能性が考えられよう。

参考文献

本稿に掲載した内容ならびに写真は、平成15年度と21年度を中心としている。

- 1) 『夷巍寺八坊と天台大師講』

二丈町民俗文化調査報告書 第6集

- 2) 『吉井の観音講』 二丈町民俗文化財調査報告書 第5集

- 3) 『鎮守の杜』 糸島神職会

- 4) 『福岡県の民俗芸能』 福岡県教育委員会

- 5) アクロス福岡文化誌4 『福岡の祭り』

アクロス福岡文化誌編集委員会

- 6) 『糸島郡誌』 福岡県郷土誌業

- 7) 『怡土志摩地理全誌』 (上)

- 8) 『筑前国統風土記』



県指定名勝 白糸の滝



小蔵寺（再興）



白糸熊野神社



観音堂



十一面観音立像・観音立像



禊ぎ場